



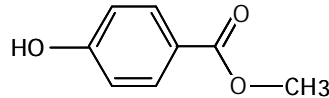
安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2022/08/08
SDS整理番号 13663250

製品等のコード : 1366-3250
製品等の名称 : p-ヒドロキシ安息香酸メチル
(4-ヒドロキシ安息香酸メチル、パラオキシ安息香酸メチル、メチルパラベン)
推奨用途 : 試薬
参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的用途。規格により用途は相違。) 化粧品・医薬・食品などの防カビ剤、保存料 など
使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約



GHS分類

物理化学的危険性
可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない
健康に対する有害性
急性毒性 (経口) : 区分に該当しない
皮膚刺激性/刺激性 : 区分に該当しない [区分3(国連GHS分類)]
環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性) : 区分3
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分3

絵表示、シンボル: 該当なし

注意喚起語 : 該当なし

危険有害性情報
軽度の皮膚刺激
水生生物に有害
長期的影響によって水生生物に有害

注意書き
【安全対策】
環境への放出を避けること。
【応急措置】
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察、手当を受けること。
【保管】
直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。
【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	p-ヒドロキシ安息香酸メチル (別名) 4-ヒドロキシベンゼンカルボン酸メチル、 メチル = 4 - ヒドロキシベンゾアート、 メチルp-ヒドロキシベンゾアート、 4-ヒドロキシ安息香酸メチル、メチルパラベン、 パラオキシ安息香酸メチル (英名) Methyl p-hydroxybenzoate、Methylparaben、 Methyl 4-hydroxybenzoate (EC名称)、 4-Hydroxybenzoic acid methyl、 p-Hydroxybenzoic acid methyl、 4-Hydroxybenzoic acid methyl ester、 Benzoic acid, 4-hydroxy-, methyl ester (TSCA名称)
成分及び含有量	:	p-ヒドロキシ安息香酸メチル、99.0%以上(乾燥後)
化学式及び構造式	:	HOC6H4COOCH3、C8H8O3、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	152.15
官報公示整理番号	:	(3)-1585
化審法 安衛法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	99-76-3
EC No.	:	202-785-7
危険有害成分	:	p-ヒドロキシ安息香酸メチル

4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を流水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の診察、手当を受ける。
目に入った場合	:	直ちに、流水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの 隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	:	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境への流出をできるだけ防止する。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項 回収、中和	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- 二次災害の防止策 : 危険でなければ漏れを止める。
- : 周辺の発火源を速やかに取除く。
- : 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- : 粉じんの発生、堆積を防止する。
- 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
- 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
- : 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
- : 接触、吸入又は飲み込まない。
- : 皮膚や粘膜等に触れると、炎症を起こすことがある。
- : 目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付ける。
- : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
- : 取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 湿気、水、高温体、火気との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策 : 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。
- : 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
- 保管条件 : 日光や高温多湿を避けて保管する。
- : 容器を密閉して冷暗所保管する。
- : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 強酸化剤
- 容器包装材料 : ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
- 許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標) : 日本産衛学会 : 設定されていない。
- : ACGIH : 設定されていない。
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
- : 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具
- 呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具 (防じんマスク) を着用する。
- 手の保護具 : 保護手袋 (塩化ビニル製、ニトリル製など) を着用する。
- 眼の保護具 : 保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。
- : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
- : 取扱い後はよく手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
- 性状 : 結晶性粉末 ~ 粉末
- 色 : 白色
- 臭い : 無臭
- pH : 約4 ~ 5 (飽和水溶液)
- 融点 : 125 ~ 128
- 凝固点 : データなし
- 沸点 : 分解 (270-280)
- 引火点 : データなし
- 可燃性 : 可燃性
- 爆発範囲 : データなし
- 蒸気圧 : 0.09 hPa (25)
- 相対ガス密度 (空気 = 1) : 5.2
- 溶解度 : 水にやや溶けにくい (0.25g/100mL, 20) (2500ppm, 20)。
- : エタノール、アセトン、ジエチルエーテルに溶ける。
- オクタノール/水分配係数 : データなし
- 発火点 : > 600
- 分解温度 : 297 ~ 298
- 粘度 : データなし
- 動粘度 : データなし

粒子特性	: データなし
GHS分類	
可燃性固体	: 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.1 (可燃性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	: 発火点は600 超であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	: 空気との接触により自己発熱性がなく、さらに、国連危険物輸送勧告 (UNRTDG) のクラス4.2 (可燃性固体) にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
水反応可燃性化学品	: 本品は水にやや溶けにくい、水に対して安定である (水との混触で可燃性ガスの発生がない) と考えられるので、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)	: 通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。
避けるべき条件	: 日光、高熱
混触危険物質	: 強酸化剤
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラットLD50 = 8,000 mg/kg (JECFA (1966)) 区分に該当しない。 経皮 分類できない。 吸入 (蒸気) 分類できない。 吸入 (粉じん) 分類できない。 ただし、粉じんを吸入した場合、のど、気管、鼻の粘膜が刺激性されることがある。
皮膚刺激性/刺激性	: ヒトについては、「正常なヒト皮膚にはnon-irritating」との記述がある一方、「50人の背中に希釈液を5日間毎日塗布し刺激性を示さなかった場合の本物質の最高濃度は5%であった」(HSDB (2007)) 旨の記述がある。動物については、ウサギを用いた24時間Draize試験において「非希釈液でPII=0.67 (最高4.0) よりmild skin irritationと評価」(HSDB (2007)) と記述されている。以上の記述より区分3とした (国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 軽度の皮膚刺激 (区分3)
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: 分類できない。 「飽和溶液は眼にmoderately irritating」(HSDB (2007)) との記述がある一方、ウサギを用いた眼刺激性試験において「100%濃度では、1日目の眼刺激性スコアが1 (最高110) で一過性のslightな眼刺激性」(HSDB (2007)) との記述があった。
呼吸器感作性	: 分類できない。
皮膚感作性	: 分類できない。 ヒトについては、男女各25名に対するRIPT (累積刺激および感作試験) で「No sensitization」(HSDB (2007)) との記述がある。動物については雌雄各5匹のモルモットを用いた接触感作性試験で「no reactions」(HSDB (2007)) との記述がある。いずれもList2の情報源のデータであり、この他に明確な陰性データがないので、分類できない。
生殖細胞変異原性	: 分類できない。 生殖細胞を用いたin vivo経世代変異原性試験 (ラットを用いた優性致死試験) で「優性致死作用を示唆する用量依存性や時間的傾向は見られなかった」(HSDB (2007)) 旨の記述があり、体細胞を用いたin vivo変異原性試験 (ラット骨髄を用いた染色体異常試験) で「染色体異常は観察されなかった」(HSDB (2007)) との記述があった。 また、in vitro変異原性試験 (CHL培養細胞を用いた染色体異常試験) で「非代謝活性条件下では陰性だが、代謝活性条件下では染色体異常が有意な増加を示した」(HSDB (2007)) との記述がある。
発がん性	: 分類できない。 主要な国際的評価機関による評価がなされていないので分類できない。 なお、ラットを用いた96週間混餌投与試験で「投与による影響は見られなかった」(HSDB (2007)) 旨の記述がある。
生殖毒性	: 分類できない。 妊娠6-15日の雌ラット、雌マウスを用いた経口投与試験で「母動物の生存への影響が見られない用量で、着床への影響および胎児の生存への影響は

- 見られず、また胎児の内臓異常、骨格異常、外表異常の頻度に有意差は見られなかった」(HSDB(2007))旨の記述があるが、500 mg/kgまでしか投与されていない。これは、HSDB(2007)のヒト健康影響の記述「催奇形性も胎児毒性もなく、子宮肥大試験で陰性」で引用文献としてFood Chem. Toxicol. 40(2002)の内容と一致する。さらに高用量での影響が不明であり、雄の生殖機能に関するデータはないので、分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 分類できない。
妊娠6-15日の雌ラット、雌マウスを用いた経口投与試験で「母動物の生存への影響が見られない用量で、着床への影響および胎児の生存への影響は見られず、また胎児の内臓異常、骨格異常、外表異常の頻度に有意差は見られなかった」(HSDB(2007))旨の記述があるが、500 mg/kgまでしか投与されていない。これは、HSDB(2007)のヒト健康影響の記述「催奇形性も胎児毒性もなく、子宮肥大試験で陰性」で引用文献としてFood Chem. Toxicol. 40(2002)の内容と一致する。さらに高用量での影響が不明であり、雄の生殖機能に関するデータはないので分類できない。
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない。
ラットへの経口投与により致死濃度を求めた試験で「生存動物について毒性、異常行動、肉眼的病理所見は見られなかった」(HSDB(2007))との記述があり、用量は区分2のガイダンス値範囲外であった。しかし、生殖毒性で引用文献として使用したFood Chem. Toxicol. 40(2002)のヒト症例の項には「本物質の経口投与により遅延型過敏反応を示した17歳の精神病患者」の例が記述されているので、分類できない。
- 誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 36mg/L (環境庁生態影響試験, 1999)

水生環境有害性 長期(慢性) : 水生生物に有害(区分3)
急性毒性区分3であり、急速分解性に関するデータがないため、区分3とした。
長期的影響によって水生生物に有害(区分3)

- 残留性・分解性 : データなし
生物蓄積性 : データなし
土壌中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
(参考) 燃焼法
紙、木屑などの可燃物と共に、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室へ投入し、焼却する。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

- 国内規制(適用法令)
陸上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
海上規制 : 特段の規制なし(非危険物)
航空規制 : 特段の規制なし(非危険物)
国連番号 : 非該当
国連分類 : 非該当
品名 : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当
毒物及び劇物取締法 : 非該当
消防法 : 非該当
化学物質排出管理促進法 (PRTR法) :
R5年3月31日まで、
第一種指定化学物質、1-334「4 - ヒドロキシ安息香酸メチル」
R5年4月1日から、
・分類 「第2種指定化学物質」
・政令番号 「2-87」
管理番号: 334
・政令名称 「4 - ヒドロキシ安息香酸メチル」
船舶安全法 : 非該当
航空法 : 非該当
海洋汚染防止法 : 非該当
水質汚濁防止法 : 生活環境項目 (施行令第三条第一項)
「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
〔排水基準〕160mg/L 以下 (日間平均 120mg/L 以下)
(注) 排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。
輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)
HSコード: 2918.29
第29類 有機化学品
・輸出統計番号 (2022年版): 2918.29-000
「カルボン酸 (他の酸素官能基を有するものに限る。) 並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
- フェノール官能のカルボン酸 (他の酸素官能基を有するものを除く。) 並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体: その他のもの」
・輸入統計番号 (2022年4月1日版): 2918.29-000
「カルボン酸 (他の酸素官能基を有するものに限る。) 並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
- フェノール官能のカルボン酸 (他の酸素官能基を有するものを除く。) 並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体: その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編
化学大辞典 共同出版
安衛法化学物質 化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版
化学物質安全性データブック オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) 三共出版
化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

p - ヒドロキシ安息香酸メチル (4 - ヒドロキシ安息香酸メチル; パラオキシ安息香酸メチル; メチルパラベン) 改訂日 : 2022/08/08

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。